

ほすびたる

No.732

平成31年1月20日
福岡県病院協会

C O N T E N T S

- | | | | |
|--------|--|--|----|
| 新年の挨拶 | 年頭のごあいさつ | 福岡県知事 小川 洋 | 1 |
| | 新年のご挨拶 | 公益社団法人福岡県医師会
会長 松田峻一良 | 2 |
| | 謹賀新年 | 公益社団法人福岡県病院協会
会長 赤司 浩一 | 3 |
| 病院管理 | 病院のBCPを考える | 救急救命九州研修所 教授 郡山 一明
公益社団法人福岡県医師会 副会長 上野 道雄
(福岡東医療センター 名誉院長) | 5 |
| 看護の窓 | 次世代の医療者を育成するために
～きつずセミナー（医療現場の体験学習）の紹介～ | 公立八女総合病院
看護部長 井樋 涼子 | 9 |
| 特別寄稿 | 脚気論争 (10) | 国立病院機構九州がんセンター
名誉院長 岡村 健 | 14 |
| Letter | イノシシ、亥そして豚 | 学校法人原学園原看護専門学校 学校長 朔 元則
国立病院機構九州医療センター 名誉院長 | 16 |
| Essay | 切手のおもいで | 元医療法人誠十字病院
平衡神経科 医師 安田 宏一 | 18 |
| | 人体旅行記 陰莖（その九） | 国立病院機構都城医療センター
副院長 吉住 秀之 | 19 |
| | 私の嗅覚障害 | 元国家公務員共済組合連合会浜の町病院
診療情報管理士 戸次 式子 | 20 |
| | ■福岡県私設病院協会「平成30年12月福岡県私設病院協会の動き」 | | 21 |
| | ■福岡県病院協会だより | | 22 |
| | ■編集後記 | 岡嶋泰一郎 | 35 |

Teleradiology Service. and ASP Service.

確かな診断を、より確かなものに。
ネットワークを利用した読影サービスで、
あなたをバックアップします。



Teleradiology

～遠隔画像診断サービス～
医療に地域格差があってはならない
そう私たちは考えます。

ASP Service

～遠隔画像診断ASPサービス～
放射線科の先生方向けに、遠隔
読影システムから課金に至るまで
統合的にサービスをご提供します。

株式会社ネット・メディカルセンター

〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目24-1
九電工福岡支店ビル6階
フリーダイヤル:0120-270614 FAX:092-533-8867
ホームページアドレス <http://www.nmed-center.co.jp/>

寝具・病衣・白衣・タオル及びカーテンのリース洗濯 患者私物衣類の洗濯

☆寝具・カーテン・看護衣・診察台カバー・タオル・紙おむつ・レセプト用紙
介護用品等の販売、ベッドマットリース・販売、給食材料・給食依託業者・
重油等の斡旋及び各種保険の取扱いもしております。

福岡県私設病院協会グループ

福岡医療関連協業組合

Clean & Comfortable



理事長 江頭 啓介

専務理事	佐田 正之	理事	津留 英智
理事	原 寛	監事	杉 健三
理事	陣内 重三	監事	松村 順
理事	牟田 和男	事務局長	日比生英一

〒811-2502 糟屋郡久山町大字山田 1217-17
TEL 092-976-0500 / FAX 092-976-2247

年頭のごあいさつ



福岡県知事

小川 洋

新年あけましておめでとうございます。公益社団法人福岡県病院協会の皆さまにおかれましては、晴れやかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

皆さまには、日ごろより県民の健康の増進と地域医療の確保にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

わが国の経済が緩やかに回復している中であって、本県は、それよりもさらに先を進み、景気は緩やかに拡大しています。雇用も、有効求人倍率は最高水準で推移し、就業者数もこの1年間で4万7千人増えました。福岡県は大変元気です。

そうした中、10月、県議会をはじめ皆さまと共に積み重ねてきた努力が実を結び、「在福岡タイ総領事館」が開設されました。11月には、KOUGEI EXPO（伝統的工芸品月間国民会議全国大会）を30年ぶりに本県で開催し、日本の伝統文化や工芸品の魅力を国内外に発信するとともに、被災地の復興ぶりもご覧いただくことができました。また、首都圏で福岡県の食や物産などのさまざまな魅力を発信するため、東京に本県初となるアンテナレストラン「福扇華」をオープンしました。そして、福岡ソフトバンクホークスの2年連続日本一もありました。

今年は、まず何より、一昨年、昨年と2年連続で見舞われた豪雨災害からの復旧・復興を加速させます。皆さまには、DMATやJMATの派遣をはじめ、それぞれのお立場から、さまざまなご支援、ご協力を賜りましたことに改めて感謝し、お礼申し上げます。引き続き、ご支援、ご協力をお願いいたします。

そして、各地域で雇用を増やし、元気な福岡県をより一層元気にし、一方で、いろいろな問題を抱えておられる方々に寄り添う、温かみのある行政に力を入れていきます。

さて、県では、がんや脳卒中といった疾病、救急や災害、そして在宅医療などに係る医療提供体制の構築について、医療審議会をはじめとした各協議会におきまして活発にご議論いただき、昨年3月に、「第7次福岡県保健医療計画」を策定したところです。貴会には、医療審議会や各区域における地域医療構想調整会議などを通じて貴重なご意見をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

県としましては、県民の皆さまがいつでも、どこでも、安心して必要な医療サービスを受けることができる医療提供体制の構築に向け、地域医療構想の実現、そして、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでまいります。

また、生涯にわたり長く元気に暮らしていくためには、「健康寿命」を伸ばしていくことが重要です。医療、介護の充実と併せ、県民一人一人が改めて自分の健康について考え、自らその維持、増進に取り組んでいく「ふくおか健康づくり県民運動」を具体的かつ着実に進めていきます。

貴会におかれましては、本年も引き続き、赤司会長のもと、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年が公益社団法人福岡県病院協会ならびに会員の皆さまにとって素晴らしい一年となりますよう、心からお祈りいたします。

新年のご挨拶



公益社団法人福岡県医師会
会長 松田 峻一良

新年明けましておめでとうございます。皆様には、平成最後の新春を健やかに迎えのものと存じます。

さて、昨年12月8日の参議院本会議において、「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律」（成育基本法）が全会一致で成立するという喜ばしいニュースがありました。医師会にとっても長年の悲願であり、超党派の議員連盟で会長代行をされた羽生田俊参議院議員、事務局長の自見はな参議院議員はじめ、多くの方々のご尽力のお陰であると思います。これまで「母子保健法」や「児童福祉法」などで個別に対応していた子どもの育成に関わる法律が統括されたことは、少子化に向き合う我が国の大きな一歩であり、今後は、福岡県においても、行政、関係機関と連携し、実効性のある施策の提言と確かな実現を目指していきたいと考えております。

この少子化対策とともに、人生100年時代を目前として大きな課題となるのが、地域包括ケアシステムの体制構築です。本会では県内の在宅医療の現況を把握するための実態調査を平成25年度から実施し、将来の需要予測や医療圏を越えた訪問診療の現状などを把握してまいりました。これからの「まちづくり」そのものである地域包括ケアシステムの構築をかりつけ医が主導して進めていくためのツールとなれば幸いです。そしてこれは、小児在宅医療の提供体制についても同様であり、拠点病院だけではなく、地域全体で検討することが必要不可欠で

あることから、現在、地域での検討体制について、県行政と協議しておりますので、皆様のご協力をよろしく申し上げます。

このような中、「診療情報ネットワーク（とびうめネット）」は、医療情報基盤（福岡県民100年健康ライフ構想）の整備と、生涯保健事業の体系化を推進するためのツールとして、少しずつ機能を追加しながら広がっております。救急医療支援システム、災害時バックアップシステム以外にも、在宅医療や多職種連携システム、地域連携パスでの活用等、各地域で必要な運用を積極的に進めていただいております。更なるとびうめネットの拡充と、早急に県民の医療情報基盤の整備を目指していきたいと考えております。

今般の医師法及び医療法の一部を改正する法律の施行により、福岡県では、これまでの地域医療支援センター運営委員会を、「福岡県医療対策協議会」として再編成し、2020年度以降に開始される医師確保計画の策定に向けて、早速動き出すこととなります。今後、「地域医療の継続性」と「医師の健康への配慮」の両立を基本理念とする、医師の働き方改革の議論も絡み、この「地域医療対策協議会」と「地域医療構想調整会議」がきちんと機能していくかが、将来、地域による医療確保に重大な影響を及ぼすこととなります。

社会構造の変化と激動する医療界を目の当りにしながら、将来を担う若者達に誇りと希望をもてる社会を引き継がなければと決意を新たにしております。本年も皆様のご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹賀新年



公益社団法人福岡県病院協会
会長 赤司 浩一

皆さまには、健やかに2019年の新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

一昨年、昨年と続く九州北部、西日本豪雨により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。被災地支援のために、多くの医療機関の皆さまには、引き続き多大なご尽力をいただきました。関係機関の皆さまのご協力に感謝申し上げます。九州大学病院からも医師、看護師らを派遣し、被災地の支援にあたらせていただきました。熊本地震、九州北部・西日本豪雨の経験を踏まえ、今後も福岡県病院協会では、福岡県および福岡県医師会との協力体制をつくり、救急災害医療に取り組んで参りたいと考えています。

若年労働人口が減少するなか、その結果としての深刻な労働力不足が明らかになってきています。また政府は働き方改革を取り上げ、今年の4月1日からは時間外労働の上限規制が導入されます。いずれも医療現場で診療にあたる医

師や医療スタッフなどの労働の質、ひいては医療の質を担保するための大切な取り組みです。しかし、これらを十分満足させることができるだけの人的資材と財源を確保することは容易ではありません。

さらに新専門医制度がスタートし、専攻医の地域偏在や診療科偏在等が大きな問題になりつつあります。更に今年は消費税が10パーセントに引き上げられ、病院経営も多難であることが予想されます。私どもをはじめ、多くの医療機関や組織がこの30年に蓄積した英知で、新しい時代の課題をどのように解決していくかが試されています。

昨年4月から福岡県病院協会会長としての任に就き、あつという間の一年でした。引き続き、これからも会長としての職務を精一杯務めさせていただきますので、これまで以上のご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

謹賀新年

公益社団法人 福岡県病院協会役員一同

(役員任期:平成30年6月26日から平成32年度定時会員総会終結時まで)

役職名	氏名	所属病院及び役職
会長	赤司浩一	九州大学病院 病院長
副会長	八木実	久留米大学病院 病院長
〃	尾辻豊	産業医科大学病院 病院長
〃	井上亨	福岡大学病院 病院長
〃	竹中賢治	福岡市立病院機構 理事長 兼福岡市民病院 名誉院長
専務理事	平祐二	医療法人原三信病院 理事長 兼院長
総務理事	岩永知秋	国立病院機構福岡病院 院長
財務理事	澄井俊彦	国立病院機構小倉医療センター 病院長
企画理事	壁村哲平	済生会二日市病院 院長代行
理事	安藤文英	医療法人西福岡病院 理事長
〃	一宮仁	国家公務員共済組合連合会浜の町病院 病院長
〃	伊東裕幸	宗像医師会病院 病院長
〃	江頭啓介	さくら病院 理事長 兼院長
〃	小嶋享二	福岡県立精神医療センター太宰府病院 院長
〃	島弘志	社会医療法人雪の聖母会常務理事 兼聖マリア病院 病院長
〃	津留英智	医療法人社団水光会宗像水光会総合病院 理事長
〃	寺坂禮治	福岡赤十字病院 院長
〃	平城守	公立八女総合病院 企業長 兼院長
〃	深堀元文	医療法人社団益豊会今宿病院 理事長 兼院長
〃	前原喜彦	公立学校共済組合九州中央病院 病院長
〃	増本陽秀	飯塚病院 院長
〃	松浦弘	済生会福岡総合病院 院長
〃	森田茂樹	国立病院機構九州医療センター 病院長
〃	横倉義典	ヨコクラ病院 院長
〃	吉田正	地方独立行政法人筑後市立病院 理事長 兼院長
監事	小柳左門	社会医療法人原土井病院 病院長
〃	原寿郎	福岡市立病院機構福岡市立こども病院 病院長
〃	吉村恭幸	福岡県社会保険医療協会 会長 兼社会保険田川病院 名誉院長
議長	岡嶋泰一郎	社会保険仲原病院 院長
副議長	梅野守男	早良病院 院長
顧問	今泉暢登志	医療法人済世会河野病院 院長
〃	河野正美	医療法人済世会河野病院 理事長
〃	瓦林達比古	福岡大学 名誉教授
〃	久保千春	九州大学 総長
〃	石橋達朗	九州大学 理事 兼副学長
〃	岡留健一郎	済生会福岡医療福祉センター 総長
〃	上野道雄	国立病院機構福岡東医療センター 名誉院長

病院のBCPを考える

救急救命九州研修所 教授 郡山 一明
 公益社団法人福岡県医師会 副会長 上野 道雄
 (福岡東医療センター 名誉院長)

1 利他的存在である病院の BCPの問題点

BCP (Business Continuity Plan) とは、「企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段などを取り決めておく計画」(中小企業庁)と定義づけられている。この定義を国語的に整理してみよう。① 誰が→企業が、② どんな時に→不可抗力の緊急事態に遭遇した時に、③ 何を目的として→中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、④ 何を行う→平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段などを取り決めておく、となる。一見、問題ない文章のように見えるが、私は③が腑に落ちないのだ。③は「経営破綻せずに復興していけるように」であり、それに伴って④が「中核となる事業の継続が可能となるよう、事前に方法・手段を決めておくこと」とすべきではないのか。

霞が関に勤務したことを含め、行政文書に接する機会が人より多い私の小さな経験を踏まえて言わせてもらえば、日本の行政文書は恣意的ではないかと思われるほどに目的と手段を混在させて書いてあり、読み手にとって最も重要であるべき最終目的の把握を極めて曖昧にさせる。

そこでBCPを私なりに再整理してみる。もともとBCPは「利己的存在」である企業を対象に構築された概念であり、その目的は「緊急事態が起きても経営破綻せずに復興していけ

る」である。

次に、これをそのまま病院に外挿できるか考えてみよう。病院のBCPの目的は「経営破綻せずに復興していける」になっているだろうか？ 答えは「否」である。病院に求められているBCPとは災害発生時でも進行中の手術、外来機能をはじめ、自病院に現存している患者の生命・身体を維持するためのものである。東京都福祉保健局によるインターネットでも入手可能 (<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryoku/kyuukyuu/saigai/zigyoukeizokukeikaku.html>) な「病院BCP策定の手引き」はその代表である。ちなみに、これはこれで非常に良くできており、多くの病院にとって参考になると思う。話をもとに戻そう。国・地方自治体も病院と同様に「身体・生命の維持」のBCP作成を求められる。なぜなら、両者ともに「利己的存在」ではなく、「利他的存在」だからである。そのうえで、病院のBCP作成に関わる者は、同じ「利他的存在」であっても、病院は国・地方自治体と決定的な違いがあることに気付かなければならない。国・地方自治体の経営は税収でなされるのに対し、病院の経営は自らの稼ぎによってなされていることである。つまり、国・自治体は何があっても潰れないが、病院は容易く潰れるのである。これらをふまえれば、病院のBCP作成の難しさが見えてくる。病院のBCPは、国・地方自治体と同様に「利他的存在」として「自病院の現存している患者の生命・身体を維持する」もの、企業と同様に経営を自らの稼ぎによって実行している存在として「経営破綻せずに復興していける」を目的とするもの、本来ならばこの2つが必要なのだ。しかしながら、「医は仁術」という言葉に代表される「利

他的存在」が強調されればされるほど、「経営破綻せずに復興していける」ためのBCP概念が失われていくのである。

2 「経営破綻せずに復興していける」ためのBCPが必要となる場合

病院が「経営破綻せずに復興していける」ためのBCPを考えるためにBusinessの基本原則から解きほぐしていこう。

Businessは、病院も企業もHard（内外部インフラ）、Man Power（人材の量と質）、Supply（外部からの資源供給）、Demand（顧客）によって構成されている（図1）。この図を元に考えれば、BusinessがContinueできなくなるのは図1の左側部分のSupply、Hard、Man Powerが破綻した場合、もしくは右側部分のDemandが低下した場合の2パターンである。前者が自然災害、大火災、テロ攻撃などであり、後者に相当するのは医療過誤、院内感染等で病院が信頼を失うときや、新興感染症等の受け入れ等で地域住民が不安を抱く場合等である。これから分かるように、現行の病院BCP概念は前者のみを対象としたものである。経営はDemandが破綻すれば一気に悪くなるにも関わらず、それに対する備えそのものの概念すらないのが現状なのだ。これに対するBCPはここまで述べたように、言及されたことすらない。独立行政法人国立病院機構福岡東医療センターの第1種感染症指定感染症センターを立ち上げた際の状況が大いに参考になるので、振り返ってみよう。

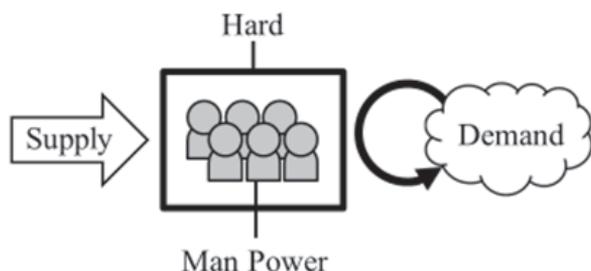


図1 Businessの基本構成要素

3 福岡東医療センターの経験と教訓

(1) 感染症センター開設についての地域とのコミュニケーション

福岡県から感染症センター開設が依頼され、院内で検討についたばかりの平成23年夏、福岡東医療センターに感染症センターが開設されることがいきなり新聞、テレビで報道された。あっという間に、住民反対運動が巻き起こり、反対署名は2000枚以上に上り、反対の集会では県の説明に罵声が飛びかい、深刻な状態に至った。実のところ、福岡東医療センターに限らず、感染症センターの新設、機能拡張施設では住民の反対運動を引きずっているのが実情である。福岡東医療センターでも事態を打開する妙案はなく、病院の誠意を伝える以外ないとの結論であった。東北大震災直後の最悪の時期で、連日、福島原発の廃墟と関係者の隠蔽に対する怒りの報道が流れていた。院長は、腹を括って、住民と正直に現状を直向きに話す覚悟を決めた。住民説明会（平成24年1月）は県の説明に対して反対意見が渦巻き混乱状態に陥った。そこで、院長が自ら手を挙げて話を始めた。住民反対の中での開設、エボラ出血熱等の対策を含めて、問題をどれくらい把握し対応できるのか、当事者である院長自身が誰よりも多くの不安を抱えていることを告げた。今、出来ることは可能な限り、それぞれの不安や問題を収集することで、そのために不安や問題を地域と共有し、考える感染症委員会と勉強会を開催したいと提案した。次いで、感染症センターの設備機能と当院の高齢者救急医療、在宅医療ネットを紹介した。説明会は混乱から真摯な討議に潮目が変わった。賛否は相半ばしていたが、徐々に、感染症センターの最新設備に対しては半信半疑であるが、従前からの病院の姿勢を担保に、当院の姿勢を見守るとの結論に落ち着いた。事後、住民と覚書を交わし、感染症委員会（地元住民を含む）と地域住民向け勉強会を開催し、平成26年7月、感染症センターが開設された。開設後の住民説明会でも住民の皆さん

との熱心な質疑を行った。事後のアンケートでは病院への暖かい応援メッセージを頂いた。

(2) 患者搬入にあたっての体制構築

1種感染症センター開設とともに、エボラ出血熱の世界的流行騒動が燃え盛った。当該病棟でも万一に備えて院内スタッフに説明会をすることとなったが、説明会は看護師のすすり泣きで始まり、納得できない看護師のひとりが過換気症候群で倒れた。面談や、メール、郵送で集めた看護師の思いの多くは、院内感染に対する恐れであった。特に乳児を抱えた若い看護師の訴えは深刻であった。また、何故私たちだけがという思い、あるいは、世間や院内職員からの閉塞感を強く感じていた。そのような状況の中、長年、当院に勤務した看護師が「私も怖いけど、若い看護師は可哀そう、私たちで」との申し出があった。7名の篤志看護師で対応チームを編成し、副師長で応援チームを作った。但し、エボラ出血熱患者の入院を想定すると、十分な要員にほど遠かった。そこで、福岡県、検疫所、県内4大学、2種感染症病床設置病院、福岡県・粕屋医師会、古賀市、福岡市、粕屋保健所、粕屋警察署、粕屋北部消防署に当院への参画を要請し、「エボラ出血熱関係機関協議会」を開催し、情報共有と関係者の叡智の結集、並びに、合同シミュレーションの企画、実行、検証を行った。次いで、古賀市、粕屋医師会、粕屋保健所と「地域協議会」を立ち上げ、具体的な地域対応策を検討した。院内体制の支援体制を築くための「エボラ出血熱の支援体制構築に向けた協議会」を県内4大学と2種感染症病床設置病院、国立病院機構グループ事務所を中心に立ち上げ、着脱訓練、感染症マニュアルに基づく病棟手順と電子カルテの操作訓練、及び、支援登録者の募集を企図した。ところが、応援勤務中の保障等の文書が全国的になく、看護職の応援体制の構築は滞った。深刻な現状に、災害支援に実績のある県内の私的病院に、院長が直接、要請したところ、大変有難いことに有事の際は病院を挙げて支援するとの快諾を得られた。事

後、公的病院との協定書を締結【平成27年4月22日】した。

感染症センターの要員は1種感染症患者の短期入院を想定したもので、厳重な防疫体制が必要なエボラ出血熱患者が入院すると、全国どの施設でも要員に不足が発生する。そこで、福岡県内で病棟手順や電子カルテ操作訓練を含めた支援体制を構築した。しかしながら、1種感染症の特殊な看護技能の習得は一朝一夕にはできず、また、致命的な院内感染を招きかねない。患者と接する看護を県内からの支援に依存することは疑問が残る。国内の1種感染症センターの体制も福岡東医療センター同様であり、全国の主要施設で勤務訓練を実施しての相互支援体制が必要と思われた。

(3) 現実化となった際の結果

その一か月後の5月17日、福岡県から「ギニアから帰国した発熱監視対象者が発熱した。受け入れを要請する。」との連絡を受けた。情報は、主として厚生労働省の事務系と医系、また、福岡県を介して伝えられた。当院の連絡で事態を知った古賀市は、当院対策本部に部課長を派遣し、密に情報共有を果たすことができた。病棟看護師や検査技師の整然として業務を遂行した。伝達速度の差や、少々の齟齬も発生したが、エボラの疑いは幸い入院後短時間のうちに晴れ、事なきを得た。古賀市が病院周辺の区長に連絡すると、「住民に動揺の動きはない。病院と古賀市の努力を地域住民に伝える」との有難い回答であった。病院にも、苦情の声は一切なかった。

4 まとめ 病院に必要なBCP

福岡東医療センターの対応を図2にまとめた。これを元に病院のBCPを如何なるものとするべきか、そのガイドラインを提案してまとめとする。

ガイドラインの第一に掲げられるのは、病院の「中核事業」が見極められ、その維持方法が

定められていることである。福岡東医療センターの経験を振り返れば、病院の中核事業は「信頼」とすべきであろう。病院自身は例えば診療患者数が多い事業や手術成績が最も高い診療科を中核事業として捉えているだろうが、それは病院への「信頼」を紡ぐひとつの要因にすぎない。「信頼」を紡ぐ要因は地域住民、近隣開業医、病院等で異なるのであり、それぞれの要因を常日頃から数値化できるものとできないものに分けて分析し、日常業務に反映させることが大前提となる。

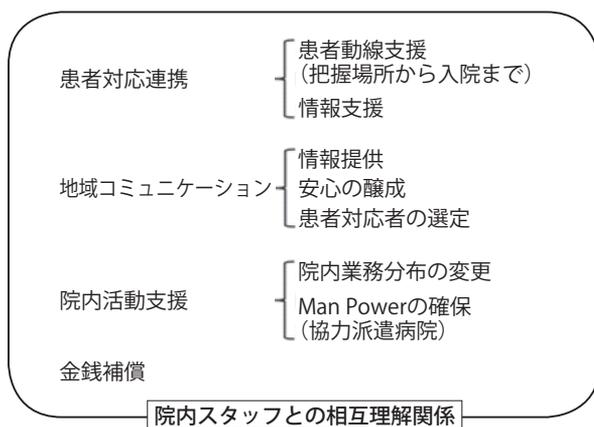


図2 福岡東医療センターの対応

ガイドラインの第二は「院内スタッフの相互理解関係」を構築されていることである。当たり前で今更のように感じられるだろうが、実はそうではない。病院が企業と決定的に異なるのは、病院を構成する診療科が病院全体を機能させるための役割分担としてではなく、それぞれが個人商店主であることだ。派遣元の大学との繋がり・帰属意識は強くとも、病院内の繋がり・帰属意識が弱い。院内スタッフの相互理解

関係は構築されにくい。これから懸念されることは、危機に瀕した際のBCP概念が病院最適化ではなく、力が強い診療科最適化になり、病院復興を遅らせる要因にもなりえることだ。診療科医師の多くは大学からの派遣により数年単位で変わっていく。着任時から院内スタッフの一員であることを意識づけすることが必要であろう。

ガイドラインの第三は「他者からの応援を組み込む」方策を決められていることである。BCPの略号になぞらえれば、Business Cooperation Planとでもなるだろうか。例えば、利他的機関である消防は、地域人口に応じて消防車や救急車の配備台数及び配備箇所選定方法が定められた上で、それを超える災害が発生した場合には、近隣消防の応援を受ける仕組みが作られている。これにならい、近年、自治体の災害対策でも被災側が「如何に応援を受けるか」という「応需」機能の充実化が重視されている。病院においても、同様に「他者からの応援を組み込む」方策を決めておくことが極めて有効である。幸い、災害応援の仕組みはDMATやJMAT等で相当に整備が進んできている。DMAT、JMATともに応需側の設立母体の如何を問うような団体ではない。福岡東医療センターが直面した感染等の場合でも、事前に第1種感染症施設のように全国に同様の機関が国によって整備されている。これらを繋ぐことに何ら問題はないはずである。

これら3点をふまえた上で、前述の東京都福祉保健局の作成方法等を参考にすると良いと思う。



次世代の医療者を育成するために

～きっずセミナー（医療現場の体験学習）の紹介～

公立八女総合病院
看護部長 井樋 涼子

当院は、300床の地域中核病院で、地域医療支援病院として診療圏人口13万人の八女地方の急性期医療を担い、「心の通った医療を提供し、安心して暮らせる地域づくりへ貢献する」の理念の基、チーム一丸となって良質な医療の提供、看護実践に取り組んでいる。

昨今将来医療を支える医師・人材不足が懸念され、少子化問題は、2025年、2040年問題に大きくのしかかる。このような社会背景から、「安心して暮らせる地域づくり」の一環および次世代の医療者の育成につながることを目的に、2016年から周辺地域の小学校5、6年生を対象に、きっずセミナーと称して医療現場の体験学習を実施している。この体験学習について、紹介する。

I. 「きっずセミナー」概要

1. 開催の目的について

- (1) 地域の住民に地域支援病院の役割について理解を深める機会とする。
- (2) 病院で働く人々の仕事体験をすることで、人の命を守る「医療」に興味を持つ機会とする。
- (3) 病院での体験を通して、命の尊さを知る機会とする。

2. 実施内容

- (1) 開催日程：1年に2回 土曜日の午前中に開催
- (2) 募集対象・人数：近隣の小学校5、6年生20名前後と保護者・兄弟姉妹

- (3) 参加費用：無料
- (4) 企画・開催・運営スタッフ：院長、看護部長始め、全部署の担当スタッフ
- (5) 内容：病院・看護部紹介、各病棟で看護体験、技術部門での医療体験・見学、病院食体験、修了証授与式

II. 「きっずセミナー」 体験学習実施内容

「きっずセミナー」は今年で3年目を迎える。開始当初、参加者は20名に満たなかったが、本年度は30名を超え、保護者や兄弟姉妹を含めると、40数名の参加があった

全職種で協力し運営しているが、小学生を引率、支援、教育する役割を担うのは、病棟の新人看護師である。まだ初々しさの残る新人看護師には小学生も親近感が沸きやすく、現場では指導される立場の新人看護師も、小学生に教えることで人に教える難しさを学ぶ機会となっている。

「きっずセミナー」は白衣を着て参加する。未経験の場所で緊張していた顔が、白衣を着ると緊張感がほぐれ笑顔になる。また、白衣を着た自分の子供を見る保護者の顔も微笑ましく、更衣室は、セミナー開始前から写真撮影の場所と化す。

病棟での看護体験は、院内デイケアを通して患者さんと触れ合う機会を設けている。核家族で育った子どもたちは、高齢の患者さんとコミュニケーションをとるのは難しいようで、現代社会の一面を垣間見る。車椅子体験や血圧測

定の体験、病棟で医師や看護師がどのように働いているか見学する。



車いす搬送体験



血圧測定をやってみました

病棟での医療体験後には、手術室や薬剤部、検査室など様々な部署を、グループ毎に見学・医療体験を行う。看護師やメディカルスタッフが、様々なアイデアと工夫を凝らし、医療の疑似体験を企画している。

手術室では、看護師と臨床工学技士が、鶏肉を電気メスで切除したり、腹腔鏡を使っておもちゃの部品を組み立てる体験ができる。ガウン



手術室で「ハイポーズ」

テクニックの練習もする。手術室での医療体験は、毎回好評である。写真撮影で、「はい、チーズ！」と言うと、皆一斉に医療テレビドラマのように、両手を胸の前にかざすポーズを取る。

薬剤部では、調剤室でマーブルチョコを使って実際に薬を分包機で1包化し、自分の薬を作る。薬に見立てたマーブルチョコが分包機で1包化される様に小学生は興味を示す。薬剤師は、飲み方（食べ方）を説明して、小学生に手渡してくれる。「1日1個ずつ飲もう!」、「食後に飲んでいい?」とカラフルな薬（マーブルチョコ）を、薬袋に入れ、大事に持って帰る。



お薬はこうやって準備されているんですね



放射線科では、放射線治療センターで治療の際に使用する照射部位の固定器具を作成する。人形に合わせて作成し、その器具をどのように使って放射線治療をしているかを再現している。固定器具に固定・圧迫された人形を見て、「なんだかきつそう」と患者の立場を疑似体験している。放射線治療センターでの看護ケア経験のない新人看護師も治療のプロセスを学べており、この経験が看護実践に活かされることを期待している。



放射線治療って大変なんだなあ

検査室では、理科の学習に役立つ実験を実施している。糖分の入った飲み物、入っていないお茶などを数種類準備し、それを試験管に入れて試薬を入れる。糖分で色が変わった試験管を見て、それがどの飲み物を入れた試験管かを当てる。なぜ糖分の量によって色が変わるのか、デンプンとヨウ素液の関係について説明を受け、実験により血液の糖分をどう測定するかを学ぶ。理科の実験に似ていても、病院の採血室という場所で、臨床検査技師に検査判定の体験をするのは、「医療」に興味を持つ機会になっている。



色が変わった！

リハビリ訓練室では、患者と看護師役に別れ、車椅子で坂道や段差をどう搬送するか体験



リハビリ体験 “段差”を超えた

する。段差での車いす搬送は難渋していた。この経験から、障害者の立場を少しでも理解し、地域社会で車いすを使用している方へ手を差し伸べられることに繋がれば、体験学習の意義は大きい。

昼食は病院食体験である。食事量の制限や塩分制限があっても、盛り付けを工夫し、素材を活かした病院食は「給食よりおいしい！」と評判がいい。一緒に参加した友人、院長や保護者との昼食会は、にぎやかなコミュニケーションの場である。

きっずセミナーに対するアンケートや感想文は、小学5、6年生とは思えない程丁寧な字で、「医療職に興味を持った」、障害者の気持ちが分かった」など、目的が達成できたと実感できる感想を書いてくれる。



小学生の感想文
励みになります

閉会式で修了証とささやかな記念品を渡すが、修了証を授与することで、小学生には病院見学というだけではない、医療職体験という達成感を味わうことができ、この達成感が、近い将来医療従事者を目指すきっかけになってくれればと考える。

Ⅲ. 「きっずセミナー」評価

小学生の感想文には、「将来は医療にたずさわる職業につきたいと思いました」「車いすで困っている人がいたら助けてあげたいと思いま

した」「医者になりたいので、とてもいい勉強になったと思います」「きっずセミナーに参加し、さらに医療系の仕事に興味が沸きました」「興味を持てた職業もいくつかありました」「私の将来の夢は看護師になることなので、きっずセミナーでとても勉強になりました」等、概ねきっずセミナー開催の目的を達成できていると考える。

小学生へのアンケートでも、「参加してどのように感じましたか？（複数回答可）」という問いに対し、参加の23人中11人が「勉強になった」、9人が「職業に興味を持った」と回答している。また、保護者のアンケートでも「病院のことに興味を持った」「看護師になりたいというわが子に現場を見せることができた」「病院の仕事はドクターやナースしか思い当たらず、他にどのような職業があるのか、今回のセミナーで体験できて将来の幅が広がったように思いました」といった内容があった。子どもに医療現場を体験してもらうことで、将来の夢の1つとなっている。

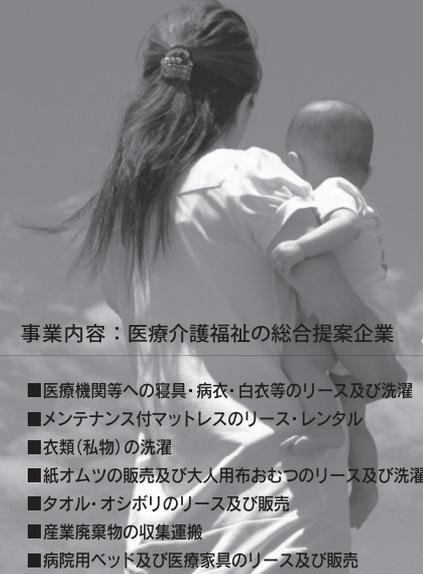
きっずセミナーへの参加が、医療の現場を知り、興味を持ってもらうこと、将来の職業として

目指してもらうことにつながることを期待する。

「八女市高齢者福祉計画 第7期介護保険事業計画」（平成30年3月）によると、八女市の総人口は減少傾向にあり、平成23年度には70,000人を下回り、平成29年度では64,000人台にまで減少している。年齢別の人口構成では、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は一貫して減少傾向にある。一方、高齢者人口（65歳以上）は、平成24年度以降増加に転じており、平成29年度で、22,000人となっている。高齢化率は、平成29年度で33.7%と市民の3人に1人が65歳以上の高齢者である。八女市の高齢化率は全国・福岡県よりも非常に高い水準で推移しており、全国平均を6ポイント上回っている。

高齢化が進む八女市の医療を支えるのは、次世代を担う子どもたちである。その子どもたちに小学生のうちから医療の様々な仕事を楽しく体験してもらい、医療従事者を目指す人材育成に貢献できれば、地域支援病院として、次世代の医療者を育成する一助になればと願いつつ今後もこのきっずセミナーを継続していきたいと考える。

「安心・安全・清潔」 未来を見つめて...



事業内容：医療介護福祉の総合提案企業

- 医療機関等への寝具・病衣・白衣等のリース及び洗濯
- メンテナンス付マットレスのリース・レンタル
- 衣類(私物)の洗濯
- 紙オムツの販売及び大人用布おむつのリース及び洗濯
- タオル・オシボリのリース及び販売
- 産業廃棄物の収集運搬
- 病院用ベッド及び医療家具のリース及び販売
- テレビ・ランドリーのリース及び販売



太陽セランドグループ

太陽セランドホールディングス株式会社
〒812-0044 福岡市博多区千代1-1-5 TEL 092-641-2578 FAX 092-641-5778

太陽セランド株式会社
〒826-0042 福岡県田川市大字川宮1200 TEL 0947-44-1847 FAX 0947-44-5805

代表取締役 **中島 健介**

太陽セランドグループ会社

太陽シルバースervice株式会社	〒838-0814 福岡県朝倉郡筑前町高田585-1	TEL:0946-21-4700 FAX:0946-21-4701
ジャパンエアマート株式会社	〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代1-1-5	TEL:092-641-5085 FAX:0946-21-4701
太陽ホテルリネン株式会社	〒812-0063 福岡県福岡市東区原田4-17-25	TEL:092-624-1321 FAX:092-624-1323
株式会社メデカルナビケーション	〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代1-1-5	TEL:092-651-0700 FAX:092-641-2672
株式会社セラント	〒802-0979 福岡県北九州市小倉南区徳力新町1-25-22	TEL:093-961-0581 FAX:093-961-0009
株式会社北九州シーアイシー研究所	〒826-0042 福岡県田川市大字川宮1200	TEL:0947-46-2029 FAX:0947-46-2101
株式会社おたふく屋	〒826-0042 福岡県田川市大字川宮1200	TEL:0947-42-3215 FAX:0947-42-3217
株式会社サンウエックス	〒826-0042 福岡県田川市大字川宮1200	TEL:0947-46-1508 FAX:0947-42-5445

平成30年度 病院研修会のご案内

テーマ 医療機関に求められるBCP ～最終責任者は病院長～

開催日 平成31年3月11日（月） 17：30～20：10

場所 九州大学医学部百年講堂1階 大ホール
（福岡市東区馬出3丁目1番1号）

定員 500名

参加費 一名につき 1,000円

講演

1. 「1種感染症センターの開設と疑似患者の入院を経て」

公益社団法人福岡県医師会 副会長

公益社団法人福岡県病院協会 顧問

国立病院機構福岡東医療センター 名誉院長

上野道雄

2. 「災害拠点病院におけるBCP策定について考える」

前橋赤十字病院 院長

群馬県災害医療コーディネーター

中野 実

3. 「病院のBCPを考える」

救急振興財団救急救命九州研修所 教授

郡山一明

シンポジウム

過去の具体的事例（エボラ出血熱疑似患者の入院）の対応をBCPと感染症災害の見地から振り返る

前橋赤十字病院 院長

中野 実

救急振興財団救急救命九州研修所 教授

郡山一明

国立病院機構福岡東医療センター 名誉院長

上野道雄

福岡県保健医療介護部医療指導課 地域医療係長

森田増夫

*お問合せは福岡県病院協会事務局（TEL 092-436-2312／E-mail : fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp）まで
お願いいたします。

脚気論争 (10)

国立病院機構 九州がんセンター 名誉院長 岡村 健

20. 英国医学とドイツ医学

脚気論争の背景には、海軍・高木兼寛の英国医学（臨床・現場重視）と陸軍・東京帝大医のドイツ医学（研究・実験重視）という、医学教育方針の根本的な違いがあった。将来、脚気惨害のような悲劇を再び起さないためには、その後の大学医学部の原型である医学校創設に際し、何故、どのような経緯でドイツ医学を採用したのかを検証しておくことは、極めて重要である。脚気論争自体から、話題は離れるが、少し考察しておこう。

3) 英国、フランスとドイツの医療体制

明治元年12月13日、土佐藩公の山内豊信(容堂)(図1)は、新政府の最高行政機関である太政官の議定となり、「知学事」という大学の最高決定者の職(後の文部大臣)に就いた。彼自身が肝臓の病をウィリスに治療してもらったこともあり、戊辰戦争でのウィリスの功績を高く評価し、相良の意見に強く反対した。福沢諭吉も「医学の範をドイツに採るがごときは、人の子を毒するもの」(鍵山栄著「相良知安」日本古医学資料センター)とドイツ医学を酷評し、英国医学を支持した。



図1 山内豊信(容堂)

福沢諭吉(図2)は緒方洪庵の適塾(大阪)で蘭学を学び、塾長になるが、江戸へ出て蘭学塾を開く。外国人と接しようとして横浜へ出かけてみると、オランダ語が全く役に立たないことに衝撃を受け



図2 福沢諭吉

た。幕末の頃、オランダは既に世界の海洋覇権を失い、英国にとって代わられていた。したがって、世界では英語が流通し、普通に使われていた。福沢もそのことは知っていたので、これからは英語を学ばなければならないことを実感し、猛勉強した(斎藤孝・現代語訳「福翁自伝」ちくま新書)。二度の渡米やヨーロッパ視察でも、英語の重要性を認識し、世界のリーダーシップを握る国は英米であると判断していた。今から、振り返れば、福沢の意見は先見性に富んでいたと言える。

英国では、セント・トーマス病院・医学校(海軍・軍医・高木兼寛の留学先)のように、医学校は病院に附属する施設であり、病院で働く医師を育てることが目的だった。それは病院が患者を収容する施設(ホスピタルの語源)から発展したからである。したがって、患者を治療するための臨床(ベッドサイド)教育が徹底された。教育内容が実際的な患者中心の医学になるのは当然だった。また、王室が基金を設け、貧しい病人の治療費を無料とした。一般的にも英国社会では病人を助けるために、富める者は慈

善的に寄附、献金するという人道・博愛主義の精神が培われていた。

フランスも英国と同様だった。幕末に徳川慶喜の弟、徳川昭武のフランス留学に随行した医師・高松凌雲（図3）は、フランスの最高医療機関であるパリの市民病院兼医学校のオテル・デュウ（神の館）で学んだ。彼は「医師は人の生命を救う尊い職業であり、清らかな人格の持主でなければならない」との厳しい精神教育を受けた。そこでは貧富の別なく接し、最良の医療を施すことを心掛けることが求められて



図3 高松凌雲

いた。貧しい病人の治療費は無料だった。病院の経費は、貴族、富豪、政治家などの寄附で賄われていた。国からの援助を拒んだ民間病院だった。高松は明治維新で急遽帰国し、幕府側の医師として箱館戦争に身を投じるが、そこでは敵の負傷兵も分け隔てなく治療にあたり、フランスで学んだ医療を実践した（吉村 昭著「夜明けの雷鳴 医師 高松凌雲」文春文庫）。

一方、ドイツではフンボルトの強力な指導のもとに大学は研究中心として作られ、病院は大学に附属するものとして存在した。患者が研究対象となるのは当然だった（松田 誠著「高木兼寛の医学」東京慈恵会医科大学）。また、ドイツ医学が臨床医学を軽視していたことについても、後のことではあるが、明治35年第1回日本医学大会でドイツ人医師ベルツ（明治9～38年まで日本で教官を務めた）が自ら「ドイツでは、医学の学問をあまりにも強調しすぎて、実際の経験を等閑視（なござりにすること）しすぎた」と認めている（吉良 枝郎「明治維新の際、日本の医療体制に何がおこったか」第57回日本東洋医学界学術総会教育講演 日東医誌 Kanpo Med）。

ここで話は逸れるが、維新前の日本の医者たちに人道主義・博愛精神がなかったわけではない。古来、医は仁術とされており、この心得は、平安時代、日本最古の医学書・丹波康頼の「医心方」の“大慈惻隱の心”に遡る。その後、安土・桃山時代、医学中興の祖・曲直瀬道三の“慈仁”、そして江戸時代に広まって、貝原益軒の「養生訓」では次のように書かれている。「医は仁術なり。仁愛の心を本とし、人を救うを以て志とすべし。わが身の利養を専ら志すべからず。天地のうみそだて給える人をすくいたすけ、萬民の生死をつかさどる術なれば、医を民の司命という、きわめて大事の職分なり」。漢方医だけでなく、幕末に活躍した蘭方医・緒方洪庵はドイツ（プロイセン）ベルリン大学内科学教授のフーフランド（1762～1836年：江戸時代後期）の「医戒（医の倫理）」を「扶氏医戒之略」として12カ条に抄訳し、適塾の門人たちを教育している。その中で「医者は人のためだけであって、自分のためではない…自分を捨てて人を救うこと…貴賤貧富の区別なく病人を診ること…」など普遍的な医の倫理を説いている。

話を戻す。ドイツでもフーフランドが医師の人道主義・博愛精神を説いていたが、ベルツが指摘したように、臨床での経験を軽視しすぎた。その結果、臨床医育成の意識が低かったものと推察される。後述するが、明治2年1月22日に相良と岩佐が医学取調御用掛に任じられた後、ボードウィンと協議し、明治2年3月ボードウィン名で「医学校兼病院ヲ建ルノ通則」（相良による和訳とされる）が太政官に提出された。それによると、病院はあくまで臨床を学ぶ「実験校」とされ、医学校兼病院の中心は医学校であることが示されていた（尾崎耕司「明治維新时期西洋医学導入過程の再検討」大手前大学論集 2013年）。石黒忠恵著「懐舊90年」でも、相良と岩佐は学校が主で病院はそこに附属すべきとの持論で活動したと述べられている。ドイツ医学導入により、医学校（大学）は研究中心の医学となったのである。

イノシシ、亥そして豚

学校法人原学園原看護専門学校 学校長 朔元則
国立病院機構九州医療センター 名誉院長

イノシシ、野猪、boar

ここ数年、1月号のLetterではその年の干支をテーマに取り上げてきたので、平成最後の年となる今年もまずイノシシの話から始めさせていた

たく。イノシシは動物学的分類では哺乳綱、鯨偶蹄目、イノシシ科、イノシシ属、イノシシ種に分類される動物で、イノシシが家畜化された動物がブタである。学名は *Sus scrofa*、1758年植物学者として有名なリンネ (Carl Linne, 1707~78) によって命名された。リンネは私が留学していたスウェーデンのルンド大学で学んだ経歴を持っており (後にウプサラ大学で勤務)、留学中はその銅像を見る機会が度々あったのでとても懐かしい。しかし本稿を執筆するまで、私はリンネがイノシシの学名を付けたなど全く知らなかった。ヒトの学名 *ホモ・サピエンス* もリンネの命名によるものだそうである。

イノシシ (猪、英語では boar) は古い大和言葉では *イ* (イ) と呼ばれていて、イノシシは *イ* (イ) の肉 (大和言葉では *シシ*) という意味に当たるそうである。現代中国語で猪という漢字はブタの意味で用いられ、イノシシを表現する場合は野猪となる。

イノシシは元来はユーラシア大陸に生息していた動物であるが、人間によってイノシシあるいはブタが再野生化したものがアメリカ大陸にも放され、爆発的に生息域を拡げることになった。イノシシとブタは同種であるから、両者が交配して出来た子孫も当然繁殖力を維持 (ブタは品種改良によって繁殖力が強化されているので、両者の混合

種は純粹の野生種よりも繁殖力が強い) している訳である。日本には北海道を除いた全国に分布しているそうである。

イノシシの食性は基本的には山林に生えている植物の根や地下茎 (草やタケノコ)、果実 (ドングリ)、キノコなどを食べる草食動物であるが、鳥類や小型哺乳類なども死骸が落ちていと採食するということである。

猪突猛進という言葉があるように、突進力に優れ、時速45kmの速さ (ヒトの最高速度は100m10秒であるから時速36km) で走るそうである。猪突猛進という言葉から私達はイノシシは方向転換が不得手のように思っているが、急停止や急な方向転換も出来るということである。

最近イノシシが市街地に出没するニュースが少なくなき、数ヶ月前にも福岡市西区の道路上で突進してきたイノシシに出勤途中の男性が衝突されて転倒する姿がテレビで放映されていた。雄イノシシは、鼻先をしゃくり上げるようにして攻撃する習性があるので、人間が攻撃された場合は危険である。股ぐらに飛びこまれて、大腿動脈の損傷を受け、失血死した例も報告されているようである。

亥 (がい)

白川静博士の常用字解によると、亥^{がい}という字は獣の骨格の形を示しており、「かたい」という意味があり、骸骨の「骸」、果物の種を意味する「核」あるいは呪霊^{じゅれい}のある獣 (亥) を殴^うってお祓いをする意味の「効」という字などに使われている。「大統領を弾劾する」という時などに使用される弾劾という言葉は、元来は獣に対して使用する

る言葉だったそうである。

十二支の最後に亥という字が使用されているのは、^{がい}闕という字から出ており、これは草木の種(核、即ち生命力の源)が門の中に閉じ込められている姿を表現しているのだそうである。明日の飛躍に向かって力を蓄えている姿である。

亥年に起こった歴史的事件としては、1911年(明治44年)に起こった孫文(1866~1925)による清朝打倒、アジア初の共和制国家中華民国建国に至る^{しんが}辛亥革命が有名である。このことから亥年を変革の年と捉える人も少なくないようである。たしかに48年前の1971年(昭和46年、^{かのと}辛亥)の年にはドルショック、24年前の1995年(平成7年、^{きのと}乙亥)には阪神・淡路大地震が発生しているのでその見方もあながち間違っていないかも知れない。

1947年(昭和22年)の亥年に第1回の統一地方選挙(4年に1度)と参議院選挙(3年に1度)が行われて以来、4と3の最小公倍数である12年毎、即ち亥年は日本では参院選と地方選挙が同時に行われる選挙の年となっている。^{つちの}己亥の今年、よもや自民党が大敗するような事態にはならないと思うが、ロシア疑惑によるトランプ大統領の弾劾成立は起こり得るかも知れないと思っている。

豚

豚については極く個人的な思い出話を書かせていただく。大学医局で研究に従事していた1965年(昭和40年)頃の話である。

恩師井口潔教授が考案された井口式血管吻合器を小児に使用した場合、成長に伴って吻合部に狭窄が発生するのではないかという疑問が提起され、その解決のため血管グループが主体となり、門亢症グループがその補佐をする形で実験を行うことになった。

その頃、教室では実験動物に犬を使用していたのであるが、犬は成長に時間がかかるので、この問題を解決するための実験には適していない。成長が早い豚で実験することになった。大枚をはた

いて養豚業者から子豚を購入(正確には記憶していないが2~3万円ぐらいかかったと思う)、大腿動静脈などいろんな箇所の血管を吻合器で吻合、子豚が大きくなった時、吻合部がどうなっているかを観察する実験を行った。

数ヶ月後、大きく成長した豚を屠殺して観察、血管吻合部は狭窄を来すことなく見事に成長していた。観察に必要なのは血管だけで肉は関係ない。肉や内臓の大半は当時研究室に出入りして犬の飼育の世話をしてくれていた松本さんという初老の方(この方が豚の解体にも協力してくれた)が持ち帰られたように記憶しているが、残りは豚汁となって医局員の胃袋に収まった。実験が成功した喜びもあって、皆で賑やかに鍋を囲んだことが懐かしく思い出される。

1974年(昭和49年)秋、Lund大学に留学して最初の研究は、九大の研究室時代に手掛けていて、大学紛争のため中断に追い込まれていた門脈動脈化の実験を再開することにした。

スウェーデンでは動物愛護法の関係で実験動物に犬は使用できなかったのも、実験に供されたのは子豚である。九大の研究室時代と違って予約した時間に実験室に行くと、そこには実験助手(Monicaというベテランの女性とIngridという若い女の子)の手によって麻酔が掛けられ、挿管まで済まされた子豚が手術台に括り付けられていた。日本と違って実験環境は格段に良好なのであるが、子豚の手術は難しい。その上高価で研究費が莫大なものになってしまう。豚を使用する実験は数頭だけで中止しあとはラットを使用する方向に切り替えた。九大時代の思い出があったので、「実験終了後の豚はどうするの? 皆で食べたりするの?」と思わず聞いてしまったが、聞かれたMonicaの方がびっくりして一言「捨てますけど…」という返事が返って来たのみであった。

平成31年、そして5月からは新しい元号に変わる2019年(^{つちの}己亥)が、平和で幸多き年になることを心から祈念している。

切手のおもいで

元 医療法人誠十字病院 安田 宏一
 平衡神経科 医師

郵便切手に興味をおぼえたのは、7歳か8歳のころだった。叔父の切手のコレクションを見せてもらった。その中のヨーロッパの国々の、凹版の切手の美しさに魅せられた。インクの盛り上がりがあり、重厚なのである。それに対し、日本の切手は凸版印刷で、うすっぺらな感じであった。

わたしは、生まれたのは福岡であるが、2歳から10歳まで台湾で育った。6歳のとき、戦争が始まった。もう外国郵便など来る時代ではなかった。叔父にももらったヨーロッパの切手数枚を、大事にして時々眺めていた。そうして、日本の切手を買って集めた。乃木大将の2銭、東郷元帥の4銭などである。その切手も、戦争が長引くにつれて、印刷の質が悪くなっていった。戦争の末期、本土との貨物船の行き来がとだえて、台湾の切手の在庫がなくなってきた。台湾では独自の切手を印刷した。しかしそれを実際に使う前に、戦争が終わった。

台湾は、蒋介石の中華民国が占領した。そこで切手も、中華民国のものが使われることになった。その切手に「限台湾貼用」と加刷がしてあった。中国本土は、中華人民共和国になっていて、別の切手を作っていたのである。

引揚てからも、切手の収集は続けていた。しかし郵政省から、民営化して郵便事業株式会社になり、切手の発行はとめどがなくなった。これは収集できる限界を超えている。また郵便局に手紙などを持って行くと、切手ではなく料金を印刷した、あじけない細長い紙をはってしまう。長かった切手愛は、ついにしぼんでしまった。

映画の中で、切手が話題になることがある。その一つは、「砂漠の鬼将軍」である。第二次世界大戦のアフリカで、ドイツのロンメル将軍が戦っている。そこへ新聞記者がやってくる。将軍と記者は、お互い切手収集の趣味があることがわかる。そこで、ある小さな国の、発行した切手の種類が何種類かという議論になる。戦地なので、正解は分からない。もう一つは、「シャレード」である。第二次大戦中、敵軍から大金をうばった数人の兵隊がいた。帰国後、それをある男が独り占めにした。当然昔の仲間から、ねらわれる。男はその金で希少価値のある切手を買って、保存する。仲間たちはその男の家に入り込み、家中高価なものを探して廻るが、切手には気が付かなかった。たぶん数千万円とか一億円というけたの問題であろうが、それほどの価値の切手があるのかどうか、わたしは知らない。

日本の切手ではカタログで調べると、150万円というのがあった。竜切手、銭単位、額面1銭のものである。



昭和切手 2銭と4銭

人体旅行記 陰茎（その九）

国立病院機構 都城医療センター
副院長 吉住 秀之

この器官は立たせたくないときに立ってしまう、あるいはその逆という反抗的な行動をとることについて、ダ・ヴィンチをはじめ多くの人々が頭を悩ませていたことは、すでに触れました¹⁾。哲学者のショーペンハウアー（1788～1860）は、『意志と表象の世界』の中で、世界を「盲目的な生への意志」の現れであると規定し、世界に働きかける身体を重視した哲学を開陳しています。彼の哲学を読むと、理性の認識に必ずしも従わない、すなわち盲目的な意志により活動する身体と苦闘していたことが垣間見えますが、彼は生殖器についてこう述べています。

生殖器は身体のいずれの外的器官にくらべてもはるかに多く意志の支配のみを受けていて、認識にはまったく支配されていない器官である。いや、そういうだけでは足りず、意志は生殖器においては認識からほとんど独立して現れてくる²⁾。

この「盲目的な意志」というのは、生命活動の根本で駆動していて、その現れとしての現象を私たちは、認識することはできるのですが、その原理を知ることはできず、それ故私たちからすれば、無根拠で盲目的な力なのだと説きました。その盲目的な意志が立ち現れるのが、立ち上がる自分の生殖器であることを認識しつつ苦悩する哲学者の息づかいが聞こえてきそうなくだりです。この「盲目的な意志」は、後年フロイトが発見した無意識にも繋がる概念です。フロイトは、性欲（リビドー）を幼児期にも見

られるものだとした上で、息子は母親をめぐって父と争う結果、父親から自分のペニスを切り取られるかもしれないという去勢不安を抱くという説を提唱しました。去勢については睾丸のところで取り上げましたが、フロイトのいう「去勢」とは、ペニス（という象徴的対象）を奪い取るという意味で使われています。人が誰しも抱く罪悪感というものの淵源を幼児期に求め、かつそれが人間に普遍的であるとしたのが、フロイトの洞察でした。男の子はみんな口から肛門、男根（陰茎）という快感を感じる領野を自らの空想をふくらませながら旅をして快感を制御することで成熟し、最終的に性器愛へ到達するというストーリーを編み出したのでした。

- 1) 「世界でもっとも軽いものは何だ？」という謎かけに対して「陰茎」という答えがあります。その理由は「思っただけで持ち上げられるから」というジョークがあります。低劣なと響きを買おうですが、ダ・ヴィンチやショーペンハウアーなどがこうして真剣に悩んでいたことを知るとこのジョークも実は深いと感じざるを得ません。
- 2) ショーペンハウアー（1970）『意志と表象の世界』（『世界の名著 45 ショーペンハウアー』所収）、中央公論社。大学に入ってこの著作に触れたときに哲学者というのはこういうことにまで思索を巡らすものなのだと痛く感心した覚えがあります。

私の嗅覚障害

元国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
診療情報管理士

戸次 式子

いつから匂いを感じられなくなったのか自分でもはっきりしないが、引き金は風邪だと思っている。

1月の終わり頃、突然咳が出始めた。昨冬からインフルエンザが流行っていたが、私は毎年11月には予防接種を受けていた。そこでいつもの風邪薬を飲んだ。そのお蔭か、のどの痛みや鼻水、咳などの症状は軽かった。熱は最高で38.5度に達したが、気分は悪くなかったので床に就くこともなかった。ただいつものことながら、食欲がなくなって何を食べても砂を噛むようだった。

その頃は外出を全て取りやめて回復に努めたので、やがて風邪はすっかり良くなり、2月中旬の東京での高校同期の集まりにも元気に参加出来た。その時の会食も、その後の友人達との蓼科行きでも、食事は美味しくいただいた。

しかし嗅覚は徐々に失われていたらしい。鈍い私のはっきり自覚したのは2月の終わり頃だった。朝のコーヒーや香水のいい香りはおろか、調理中のニンニクさえも全く臭わない事に気づいた。それでも痛くも痒くもない無嗅覚は日常生活においては支障を感じなかったのも、そのうちに良くなるだろうと放置していた。また味覚には異常はなかった。「嫌な臭いがしないので却っていいよ」とうそぶいてもいたの

だが、食物の傷みやガス漏れなど、臭いがしないと確かに危険な場合もある。

3月末の或る食事会でお会いしたドクターから、旧知のI先生の耳鼻咽喉科クリニックに行くよう勧められ、4月に入ってやっとクリニックを受診した。診察の結果は鼻に異常はないとのことだった。とすると、匂う匂わないは本人の自覚的な感覚なので却って厄介かもしれない。先生は「難病です」と笑いながら仰った。処方ではビタミンAとステロイド点鼻薬だった。

それからはきちんと薬を飲み点鼻薬を注した。そして毎朝、臭いの基準にしたわけではないが香水瓶をかいでみた。2か月たった頃から少し匂いを感じられるようになった。

3か月近くたつとすっかり嗅覚は戻ったが、先生からは薬を止めるとまた再発する人もいると言う話も聞いていたので、それからは再び嗅覚を失ってないかと、つい何でも臭いをかぐ変な癖がついてしまった。又その後一時期は何か化学物質的な臭いをしばしば感じていたが、過敏になっていたのだろう。

先日、久しぶりに「ちりめん山椒」を作った。山椒の実には田舎にも家がある友人から初夏の頃貰って冷凍していたのだったが、ちりめんじゃこに加えるとさわやかな山椒の香りが部屋いっぱい広がった。

●福岡県私設病院協会・福岡県医療法人協会プラザ

平成 30 年 12 月福岡県私設病院協会の動き

◎ 看護部長会運営委員会

日 時 12月7日(金)午後3時

場 所 協会会議室

議 題

1. 協議事項

- (1) 多職種連携について
- (2) 11月研修会について
- (3) 情報交換について
- (4) その他

2. 報告事項

- (1) 前回議事録について
- (2) 私設病院協会研修会について
- (3) 私設病院協会10月～11月の動き

◎ 広報委員会

日 時 12月11日(火)午後3時45分

場 所 協会事務室

議 題

- 1. 福私病ニュースの編集について
- 2. その他

◎ 理 事 会

日 時 12月11日(火)午後4時

場 所 協会会議室

議 題

- 1. 会長あいさつ

2. 協議事項

- (1) 会員異動について
- (2) 研修会について
- (3) 福岡県医療対策協議会委員の推薦について
- (4) 地域医療構想について
- (5) 医療ガスの安全管理について

3. その他

- (1) 次期診療報酬改定に関する要望事項について
- (2) 小児在宅医療シンポジウムの案内について

4. 報告事項

- (1) 私設病院協会
- (2) 看護学校
- (3) 医療関連協業組合
- (4) 全日病、日慢協、日医法人協 他連絡

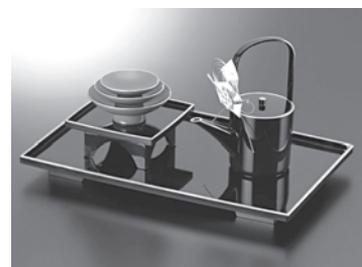
◎ 福岡県地域医療構想アドバイザーと福岡県私設病院協会・福岡県医療法人協会の意見交換会

日 時 12月20日(木)午後6時

場 所 福岡県医師会館6階 研修室4

議 題

- 1. 地域医療構想の推進に向けた今後の取り組みについて
- 2. その他



理 事 会

◎ 第 60 回理事会 報告

日 時 平成 30 年 12 月 4 日 (火)
16:00 ~ 17:00
場 所 タカクラホテル福岡 3 階 カトレアの間
(福岡市中央区渡辺通 2 丁目 7-21)

出席者 (敬称略)

副会長 八木、井上、竹中
理 事 平専務理事、岩永総務理事、澄井財務
理事、壁村企画理事、一宮、伊東、江頭、
小嶋、平城、深堀、増本、松浦、森田、
横倉、吉田

計 18 名 (理事総数 25 名)

監 事 原、吉村
議 長 岡嶋、梅野
顧 問 河野、上野

I 行政等からの通知文書

特にありませんでした。

II 報告事項

1 公益目的事業関係

(1) 各種委員会・研修会関係

【開催結果】

ア 第 1 回臨床検査委員会
江頭担当理事から、報告がありました。

日 時 平成 30 年 10 月 30 日 (火)
13:30 ~ 14:30

場 所 TKP 博多駅筑紫口ビジネスセン
ター 302 会議室

協議事項

- 1 平成 30 年度臨床検査研修会の開催について
- 2 委員の交代について
- 3 副委員長の選任について

イ 第 155 回看護研修会

一宮担当理事から、報告がありました。

日 時 平成 30 年 11 月 6 日 (火) 10:00
~ 7 日 (水) 15:30

場 所 九州大学医学部百年講堂

テーマ 認知症 (看護実践力向上研修 2)

内 容 別紙 1 のとおり (別紙 1 略)

ウ 第 57 回診療情報管理研究研修会

増本担当理事から、報告がありました。

日 時 平成 30 年 11 月 21 日 (水)
10:00 ~ 17:00

場 所 九州大学医学部百年講堂

テーマ これからの診療情報管理、診療情
報管理士の役割

内 容 別紙 2 のとおり (別紙 2 略)

エ 第 1 回栄養管理委員会

平城担当理事から、第 68 回研修会を平成
31 年 8 月 24 日開催予定としたこと等の報
告がありました。

日 時 平成 30 年 11 月 28 日 (水) 15:00 ~
場 所 JR 博多シティ 10F 小会議室

協議事項

- 1 第 67 回栄養管理研修会の反省
- 2 第 68 回栄養管理研修会の開催について

オ 第 2 回リハビリテーション委員会

岩永担当理事から、第 2 回研修会は、台風
の接近により中止した第 1 回研修会の内容
で、平成 31 年 2 月 2 日に開催することと
したと報告がありました。

日 時 平成 30 年 11 月 30 日 (金) 14:30 ~
場 所 TKP 博多駅筑紫口ビジネスセン

ター 903 会議室

協議事項

- 1 平成 30 年度第 1 回リハビリテーショ
ン研修会について

2 平成30年度第2回リハビリテーション研修会の開催について

Ⅲ 収益事業、法人事務等関係

1 報告事項

(1) 各種委員会、研究会関係

【開催結果】

ア 平成30年度第2回経営管理研究会

澄井担当理事から、報告がありました。

日 時 平成30年11月1日(木)

14:55～17:00

場 所 九州大学医学部百年講堂

テーマ 2018年診療報酬改定～その後の動向～

講 演

「2018年診療報酬改定～その後の動向について～」

社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院

院長 島 弘志

質疑応答

イ 第1回医療事務委員会

小嶋担当理事から、報告がありました。

日 時 平成30年11月20日(火)

16:30～17:30

場 所 JR博多シティ10F小会議室

協議事項

1 委員の交代について

2 第118回医療事務研究会の開催について

ウ 第1回経営管理委員会

澄井担当理事から、報告がありました。

日 時 平成30年11月27日(火)15:00～

場 所 TKP博多駅筑紫口ビジネスセンター 903会議室

協議事項

1 平成30年度第1回・第2回経営管理研究会報告

2 平成31年度の枠組み方針について

エ ほすびたる編集委員会(岡嶋委員長)

岡嶋委員長から、報告がありました。

日 時 平成30年12月4日(火)15:45～

場 所 タカクラホテル福岡3階

カトリアの間

協議事項

1 12月号の現況について

2 1月・2月号の編集について

3 その他

(2) 第59回理事会の議事録について

平専務理事から、説明がありました。

了承されました。

(3) 10月分収支報告について

澄井財務理事から、報告がありました。

了承されました。

(4) 会員の変更について

平専務理事から、説明がありました。

香椎丘リハビリテーション病院(福岡市東区)

佐々木靖 前院長 → 松尾義孝 院長

了承されました。

(5) 次期診療報酬改定に関する要望調査について

平専務理事から、依頼の趣旨・内容について説明が行われ、寄せられた提案意見を五役会で検討し、期限を踏まえ県医師会に回答した旨、及び回答内容について説明がありました。

了承されました。

(6) 福岡県医療対策協議会委員の推薦について

平専務理事から、県からの依頼の趣旨・内容について説明が行われ、推薦期限を踏ま

え、五役でメール協議の上、竹中副会長（県地域医療支援センター運営委員会の現委員）を推薦することとし、本人の内諾を得て推薦した旨の説明がありました。
了承されました。

- (7) 第1回福岡県地域医療構想調整会議の結果について
竹中副会長から、11月13日に開催された同全体会議の結果について、報告がありました。

2 協議事項

- (1) 入会申込みについて
平専務理事から、説明がありました。
社会医療法人社団至誠会 木村病院（福岡市博多区）
理事長 木村 寛
承認されました。
- (2) カネミ倉庫(株)との油症治療費の支払いに関する契約について
平専務理事から、同社からの願い出の趣旨・内容について説明が行われ、契約更新を行うことが承認されました。

3 行事予定

- 平専務理事から、説明がありました。
- (1) 平成30年12月
ア 参与・各種委員会正副委員長・役員懇談会
日 時 平成30年12月4日（火）17:00～
場 所 タカクラホテル福岡(中央区渡辺通)
2階 富士の間

- (2) 平成31年1月

ア ほすびたる編集委員会・理事会
日 時 平成31年1月22日（火）
場 所 福岡県医師会館 6F 研修室3
① 15:45～ ほすびたる編集委員会
② 16:00～ 理事会

- イ 第24回四県病院協会連絡協議会

日 時 平成31年1月25日（金）15:00～
場 所 ANAクラウンプラザホテル福岡

- ウ 第2回看護委員会

日 時 平成31年1月30日（水）13:30～
場 所 JR博多シティ 10F 小会議室

- (3) 平成31年2月

ア 平成30年度臨床検査研修会
日 時 平成31年2月16日（土）13:30～
場 所 浜の町病院
テーマ 臨床検査の精度管理 ～医療法改正を踏まえ～

4 最近の医療情勢について

消費税の補填率についての国による試算結果に関連し、森田理事から、自院による調査結果について情報提供がなされました。

また、平専務理事の問いかけに応じ、第24回四県病院協会連絡協議会の議題や来年5月の10連休への対応について意見・情報交換が行われました。

謹賀新年

本年もよろしく
お願い申し上げます。



*掲載は受付順にさせていただきました。



九州大学病院

KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL

病院長 赤 司 浩 一

〒 812-8582
福岡市東区馬出 3 丁目 1 番 1 号
電話 (092)641-1151 FAX (092)642-5008
URL <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>



久留米大学病院

KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

病院長 八 木 実

〒 830-0011
久留米市旭町 67 番地
電話 (0942)35-3311 FAX (0942)32-6278
URL <http://www.hosp.kurume-u.ac.jp>

医療法人 原三信病院

Harasanshin Hospital

理事長 平 祐 二
院 長

〒 812-0033
福岡市博多区大博町 1 - 8
電話 (092)291-3434 FAX (092)291-3424
URL <https://www.harasanshin.or.jp>



独立行政法人 国立病院機構

小倉医療センター

院 長 澄 井 俊 彦

〒 802-8533
北九州市小倉南区春ヶ丘 10 番 1 号
電話 (093)921-8881 FAX (093)922-5072
URL <http://www.kokura-hp.jp/>

地域医療支援病院

ih 飯塚病院
innovate and evolve

院長 増本 陽秀

〒820-8505
飯塚市芳雄町3番83号
電話 (0948)22-3800 FAX (0948)29-5744
URL <http://aih-net.com>



医療法人社団 益豊会

今宿病院

理事長 深堀 元文
院長

〒819-0167
福岡市西区今宿2丁目12番7号
電話 (092)806-0070 FAX (092)806-4417
E-mail: info@imajuku-hospital.gr.jp
URL <http://www.imajuku-hospital.gr.jp>



宗像医師会病院
MUNAKATA MEDICAL ASSOCIATION HOSPITAL

院長 伊東 裕幸

〒811-3431
福岡県宗像市田熊5丁目5番3号
電話 (0940)37-1188 FAX (0940)37-0016

一般社団法人
福岡県社会保険医療協会

7つの社会保険病院を中心に
地域に根ざした医療を提供

会長 吉村 恭幸

〒810-0001
福岡市中央区天神3丁目7-31 N天神ビル2階
電話 (092)741-9120 FAX (092)751-5910
E-mail: k-yoshimura@iryokyokai.or.jp
URL <http://iryokyokai.or.jp/>



医療法人 福岡桜十字

桜十字福岡病院

理事長 今村 博孝
院長

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通3丁目5番11号
電話 (092)791-1100 FAX (092)791-1105
E-mail: fukuoka.info@sakurajyujin.jp
URL <http://www.sj-fukuoka.or.jp/>



社会福祉法人 財団 恩賜 済生会

福岡県済生会二日市病院

院長 間野 正衛

〒818-8516
福岡県筑紫野市湯町3丁目13番1号
電話 (092)923-1551 FAX (092)924-5210
E-mail: info@saiseikai-futsukaichi.org
URL <http://www.saiseikai-futsukaichi.org>



理事長 佐田 正之
院長 住吉 金次郎

〒 810-0004
福岡市中央区渡辺通2丁目4番28号
電話 (092)781-6381 FAX (092)724-9411
E-mail:info@sada.or.jp
URL <http://www.sada.or.jp>



理事長 中尾 一久
院長

〒 830-0054
福岡県久留米市藤光町 965 番地の 2
電話 (0942)51-3838 FAX (0942)51-3535
E-mail:kouradai-web@kyueikai.jp
URL <http://www.kyueikai.jp/rehabili/>



院長 川崎 雅之

〒 837-0911
福岡県大牟田市大字橘 1044-1
電話 (0944)58-1122 FAX (0944)58-6804
URL <http://www.oomuta-h.com/>



院長 富田 昌良

〒 817-1112
福岡県糸島市浦志 532 番地 1
電話 (092)322-3631 FAX (092)322-3774
E-mail:info@itomedhp.jp
URL <http://itomedhp.jp>

医療法人 堤小倉病院
成康会

理事長 堤 康博
院長

〒 821-0012
北九州市小倉南区大字堀越 358 番地
電話 (093)962-1950 FAX (093)963-1075
E-mail:horiko@lime.ocn.ne.jp
URL <http://www.tsutsumikokura.com/>



理事長 安藤 文英
院長 中垣 充

〒 819-8555
福岡市西区生の松原 3 丁目 18 番 8 号
電話 (092)881-1331 FAX (092)881-1333
E-mail:jim@nishifukuhp.or.jp
URL <http://www.nishifukuhp.or.jp>



理事長 中村 奎吾
院長 脇坂 愛次郎

〒816-0902
大野城市乙金3丁目18番20号
電話 (092)503-2261 FAX (092)503-2474
E-mail:general-tsukushikai@awa.bbq.jp
URL <http://tsukushi-kai.com/>



病院長 一宮 仁

〒810-8539
福岡市中央区長浜3丁目3番1号
電話 (092)721-0831 FAX (092)714-3262
E-mail:info@hamanomachi.jp
URL <http://www.hamanomachi.jp>

医療法人 三野原病院
湊江堂

理事長 三野原 元澄
院長

〒811-2402
福岡県糟屋郡篠栗町金出3553
電話 (092)947-0040 FAX (092)947-1011
URL <http://www.minkodo-minohara.com>



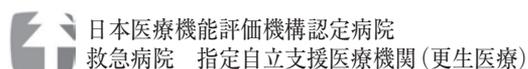
理事長 江頭 啓介
院長

〒814-0143
福岡市城南區南片江6丁目2番32号
電話 (092)864-1212 FAX (092)865-4570
E-mail:info@sakurahp.or.jp
URL <http://www.sakurahp.or.jp/>



理事長 津留 英智
院長 田山 慶一郎

〒811-3298
福岡県福津市日蔭野5丁目7番地の1
電話 (0940)34-3111 FAX (0940)43-5981
E-mail:hosp@suikokai.or.jp



医療法人 シーエムエス
杉循環器科内科病院

理事長 杉 健三
院長

〒837-0916
大牟田市大字田隈950-1
電話 (0944)56-1119 FAX (0944)56-2077
E-mail:soumu@sugi-hosp.jp



特定医療法人財団博愛会
博愛会病院

院長 三澤 正

〒 810-0034
福岡市中央区笹丘 1 - 28 - 25
電話 (092)741-2626 FAX (092)741-2627
E-mail:info@hakuikai.or.jp
URL <http://www.hakuikai.or.jp>



地方独立行政法人 福岡市立病院機構
福岡市民病院

院長 桑野 博行

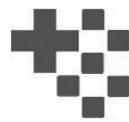
〒 812-0046
福岡市博多区吉塚本町 13 番 1 号
電話 (092)632-1111 FAX (092)632-0900
E-mail:shiminbyoin@fcho.jp
URL <http://www.fcho.jp/shiminhp>



独立行政法人 地域医療機能推進機構
Japan Community Health Organization : JCHO
福岡ゆたか中央病院
Fukuoka Yutaka Central Hospital

院長 松本 高宏

〒 822-0001
福岡県直方市大字感田 523 番地 5
電話 (0949)26-2311 FAX (0949)26-6748
E-mail:main@fukuoka.jcho.go.jp
URL <http://www.fukuoka.jcho.go.jp>



国家公務員共済組合連合会
新小倉病院

院長 渋谷 恒文

〒 803-8505
北九州市小倉北区金田 1 丁目 3 番 1 号
電話 (093)571-1031 FAX (093)591-0553
E-mail:kk-shinkokura@shin-kokura.gr.jp
URL <http://www.shin-kokura.gr.jp>

日本郵政株式会社

福岡逓信病院

院長 津田 泰夫
副院長 和田 寛也

〒 810-8798
福岡市中央区薬院 2 丁目 6 番 11 号
電話 (092)741-0300 FAX (092)781-2563
URL <http://www.hospital.japanpost.jp/fukuoka>



福岡県立精神医療センター
太宰府病院

院長 小嶋 享二

〒 818-0125
福岡県太宰府市五条 3 丁目 8 番 1 号
電話 (092)922-3137 FAX (092)924-4060
E-mail:info@dazaifu-hsp.jp
URL <http://www.dazaifu-hsp.jp>



社会医療法人
弘恵会 ヨコクラ病院

理事長 横倉 義武
院長 横倉 義典

〒 839-0295
福岡県みやま市高田町濃施 480 番地 2
電話 (0944) 22-5811 FAX (0944) 22-2045
E-mail: info@yokokura.jp
URL <http://www.yokokura.jp>

国家公務員共済組合連合会

千早病院

院長 明石 良夫

〒 813-8501
福岡市東区千早 2 丁目 30 番 1 号
電話 (092) 661-2211 FAX (092) 683-0411
E-mail: chihayahp@chihaya1.po-jp.com
URL <http://www.chihaya-hp.jp/>



社会福祉法人 柏芳会
田川新生病院
Hakuhoukai Tagawa Shinsei Hospital

院長 光永 吉宏

〒 825-0004
福岡県田川市夏吉 3638 番
電話 (0947) 44-0690 FAX (0947) 46-0568
URL <http://www.tagawasinsei.jp/>

地域医療支援病院 地域がん診療連携拠点病院



一般社団法人 福岡県社会保険医療協会
社会保険 田川病院

院長 田中 裕穂

〒 826-0023
福岡県田川市上本町 10-18
電話 (0947) 44-0460 FAX (0947) 45-6540
URL <http://www.s-tagawa-hp.tagawa.fukuoka.jp>



TAGAWA “地方の医療創生は田川から”

田川市立病院

田川市
病院事業管理者 齋藤 貴生

病院長 松隈 哲人



医療法人 博愛会

京都病院

みやこびょういん

理事長 岡松 秀一

院長 中池 竜一

〒 824-0811
福岡県京都郡みやこ町勝山箕田 298 番地
電話 (0930) 32-2711 FAX (0930) 32-2712
E-mail: miyako-post@miyako-hp.or.jp
URL <http://www.miyako-hp.or.jp/>



原土井病院
HARADOI HOSPITAL

理事長 原 寛
院長 小柳 左門

〒 813-8588
福岡市東区青葉 6 - 40 - 8
電話 (092)691-3881 FAX (092)691-1059
E-mail:info@haradoi-hospital.com
URL <https://www.haradoi-hospital.com>



地方独立行政法人 福岡市立病院機構
福岡市立こども病院
Fukuoka Children's Hospital

院長 原 寿郎

〒 813-0017
福岡市東区香椎照葉 5 - 1 - 1
電話 (092)682-7000 FAX (092)682-7300
E-mail:f-kodomo@fcho.jp
URL <http://www.fcho.jp/childhp/>



地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院
公立八女総合病院
Yame General Hospital

企業長 平 城 守

〒 834-0034
福岡県八女市高塚 540 - 2
電話 (0943)23-4131 FAX (0943)22-3185
E-mail:yame-general@yamehp.jp
URL <http://www.hosp-yame.jp/>



院長 梅野 守男

〒 819-0002
福岡市西区姪の浜 2 丁目 2 番 50 号
電話 (092)881-0536 FAX (092)883-8761
URL <http://www.sawara-hp.jp/>



日本医療機能評価機構認定病院
地方独立行政法人
筑後市立病院

理事長 吉田 正
院長

〒 833-0041
筑後市大字和泉 917 - 1
電話 (0942)53-7511 FAX (0942)53-7515
URL <https://www.chikugocity-hp.jp>



医療法人 社団 俊聖会
甘木中央病院

理事長 中村 雅史

〒 838-0068
福岡県朝倉市甘木 667
電話 (0946)22-5550 FAX (0946)24-3572
URL <http://www.amagichuuou-hp.jp>



公立学校
共済組合 **九州中央病院**

Kyushu Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers

病院長 **前原 喜彦**

〒 815-8588
福岡市南区塩原 3 丁目 23 - 1
電話 (092)541-4936 FAX (092)541-4540
URL <http://kyushu-ctr-hsp.com>



福岡赤十字病院

日本赤十字社

院長 **寺坂 禮治**

〒 815-8555
福岡市南区大楠 3 丁目 1 番 1 号
電話 (092)521-1211 FAX (092)522-3066
URL <http://www.fukuoka-med.jrc.or.jp>



一般財団法人 医療・介護・教育研究財団

柳川病院

院長 **於保 和彦**

〒 832-0077
福岡県柳川市筑紫町 29 番
電話 (0944)72-6171 FAX (0944)72-2092
URL <https://www.yanagawa-hsp.jp>



医療法人 井上会

篠栗病院
SASAGURI HOSPITAL

理事長
院長 **陣内 重三**

〒 811-2413
福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲 94 番地
電話 (092)947-0711 FAX (092)947-0715
E-mail:info@sasaguri.or.jp
URL <http://www.sasaguri.or.jp>



社会福祉法人 恩賜財団 済生会

福岡県済生会福岡総合病院

院長 **松浦 弘**

〒 810-0001
福岡市中央区天神 1 丁目 3 番 46 号
電話 (092)771-8151 FAX (092)716-0185
E-mail:byoin@saiseikai-hp.chuo.fukuoka.jp
URL <https://www.saiseikai-hp.chuo.fukuoka.jp>



医療法人 徳洲会

福岡徳洲会病院

Fukuoka Tokushukai Hospital

院長 **海江田 令次**

〒 816-0864
福岡県春日市須玖北 4 丁目 5 番地
電話 (092) 573-6622 FAX (092) 573-1733
URL <http://www.f-toku.jp>

公益社団法人福岡医療団

千鳥橋病院

CHIDORIBASHI HOSPITAL

院長 山本 一 視

〒 812-8633
福岡市博多区 5 丁目 18 - 1
電話 (092)641-2761 FAX (092)633-3311
URL <https://www.chidoribashi-hp.or.jp>



一般社団法人 福岡県社会保険医療協会

なかばる
社会保険 仲原病院

Social Insurance Nakabaru Hospital

院長 岡嶋 泰一郎

〒 811-2233
福岡県糟屋郡志免町別府北 2 丁目 12 番 1 号
電話 (092)621-2802 FAX (092)623-2247
E-mail: nhp-jimu1@nakabaru-hp.jp
URL <http://www.nakabaru-hp.jp/>

医療法人 済世会

河野病院

KAWANO Hospital

理事長 河野 正美
院長 今泉 暢登志

〒 811-2413
福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲 139
電話 (092)947-0611 FAX (092)947-8598
E-mail: info@kawano-hp.com
URL <https://www.kawano-hp.com/kawano/>



独立行政法人 地域医療機能推進機構

九州病院

Kyushu Hospital

院長 内山 明彦

〒 806-8501
北九州市八幡西区岸の浦 1 丁目 8 番 1 号
電話 (093)641-5111 FAX (093)642-1868
URL <http://www.kyusyu.jcho.go.jp>

誠心会 井上病院

理事長 井上 健
院長

〒 819-1104
福岡県糸島市波多江 699 番地 1
電話 (092)322-3437 FAX (092)322-5806
URL <https://www.sih.or.jp>



朝倉医師会病院

ASAKURA MEDICAL ASSOCIATION HOSPITAL

院長 山田 研太郎

〒 838-0064
福岡県朝倉市来春 422 - 1
電話 (0946)23-0077 FAX (0946)23-0076
URL <http://www.asakura-med.or.jp/hospital/>

社会医療法人 雪の聖母会

理事長 井手 義雄

聖マリア病院

病院長 島 弘志

〒 830-8543 福岡県久留米市津福本町 422
電話 (0942)35-3322 FAX (0942)34-3115
URL <http://www.st-mary-med.or.jp/>

聖マリアヘルスケアセンター

病院長 井手 睦

〒 830-0047 福岡県久留米市津福本町 448 番 5
電話 (0942)35-5522 FAX (0942)34-3306
URL <http://www.st-mary-health.jp/>



独立行政法人
国立病院機構

福岡病院

Fukuoka Hospital

院長 岩 永 知 秋

〒 811-1394
福岡市南区屋形原 4-39-1
電話 (092)565-5534 FAX (092)566-0702
URL <https://fukuoka.hosp.go.jp/>

医療・福祉、介護など全ての医療環境をサポートします

サービス内容

- ・医療機器、医療器具、医療消耗品の販売
- ・病院給食に関連した業務用食材及び厨房器機等の販売
- ・病院、介護施設に関する工事及び物品の販売
- ・臨床検査・水質検査・検便検査から食中毒検査などの検査
- ・看板、チラシ、インターネット等を利用した広告作製

これまで培ったノウハウを生かし、開業前の構想～開業後の施設経営まで九州・沖縄の医療機関、介護施設などの経営を全力でサポートいたします。

有限会社 DMS

(ドリーム・メディカル・サービス)

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号3F
TEL:092-525-7666・7667 FAX:092-525-7668

福岡県精神科病院協同組合

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号2F
TEL:092-521-0690 FAX:092-524-4632

編集後記

あけましておめでとうございます。2019年度、「ほすびたる」1月号をお届けします。

平成最後の新年号は、まず冒頭に、小川洋福 岡山知事、松田峻一良 福岡県医師会長、それに 福岡県病院協会の赤司浩一会長に、新年のご挨拶と抱負を述べていただきました。また、会員の皆様から、たくさんのお年賀の挨拶をいただき、ありがとうございました。本年も引き続き、「ほすびたる」をご愛顧いただけますよう、編集委員一同、心よりお願い申し上げます。

さて、1月号の編集後記は、ネタ切れのため、恒例の編集委員全員の出演による「新春恒例特別演劇大会」と相成りました。題して「いのししの恩返し」。とざい、と〜ざい、幕が開きます。

むかし、むかし、ある所におじいさんと、おばあさんが住んでいました。おじいさんの名は「オカジマ」（岡嶋）、おばあさんは「スミイ」（澄井）といました。2人は、「ほすびたる」という書物を刷り、毎月、村人に配っていました。役に立つ記事が満載されており、村人の間で好評でした。ある日、オカジマが山に芝刈りに行き、竹やぶを歩いていると、一本の竹が、金色に輝いているを見つけました。割ってみると、竹の中（竹中）から金色に光るイノシシの赤ちゃんがでてきました。驚いたオカジマは赤ちゃんを持って家に戻ります。そのころ、スミイは川で洗濯をしていました。見ると、上流から大きな桃が流れてくるではありませんか。スミイはそれを大事に抱え、家路を急ぎます。二人が住む家は、壁に囲まれた村（壁村）の中にあり、「ほすびたる庵」と呼ばれていました。庭には、美しいアカシア（赤司）の花が咲き乱れています。桃を割ってみると、なんと、中から銀色に光るイノシシの赤ちゃんが飛び出しました。金色のイノシシは男の子、銀色は女の子だったので、それぞれ「ユージ」（平）と「レイコ」（平野）と名付け、本当の子供のように可愛がって育てました。月日は経ち、ユージとレイコ

は、ますますもっと（増本）その輝きを増し、村中の評判となりました。ほすびたる庵の近く、岩の長い（岩永）壁に囲まれた砦にすむ代官は、どくろ仮面の異名を持つ悪党で、イノシシ鍋が好物であり、ユージとレイコを捕まえて食べる機会を狙っていました。そして、ある夜、夜陰にまぎれ、ほすびたる庵を襲ったのです。オカジマとスミイを縛り、ユージとレイコを連れ去ろうとしたその時、突然、あの有名なテーマ曲とともに、月光仮面のいでたちをした大きなイノシシがバイクに乗って空から降りてきました。後ろの座席には巫女が乗っています。巫女は「ナガヌマ」（長沼）と名乗り、イノシシの名を「サカモト」（坂本）であると告げました。どくろ仮面一派は雲散霧消し、ユージとレイコも無事でした。ナガヌマは、天上のイノシシの国から来たといい、金と銀のイノシシの子を育ててくれたことに深く礼を言い、玉手箱のような箱を残して、ユージとレイコとともに天上の国へ戻って行きました。箱をあけてみると、白い煙が立ちのぼり、中には12冊の書物が入っています。なんと、それは来るべき新年度に発刊予定の「ほすびたる」1月号から12月号までの全冊ではありませんか！どの号も、いつのまにか興味溢れる記事でうまっています。オカジマは編集後記をみてみました。すべて、すでに書かれています。いつもネタに困っているのを見かねていたイノシシの神様が助けてくれたのでしょう。感謝の気持ちでいっぱいになりました。その後、ほすびたる庵には、金と銀のイノシシの像が祭られ、「ほすびたる」はますます多くの人たちに読まれるようになったということです。FINE.

ほすびたる編集委員会一同、皆様のご期待にそえるよう、本年も頑張っていきたいと思えます。皆様のご支援、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（岡嶋泰一郎 記）

第3回臨床検査研修会のご案内

テーマ 臨床検査の精度管理 — 医療法改正を踏まえて —

開催日 平成31年2月16日（土） 13:00～16:35

場所 国家公務員共済組合連合会浜の町病院3F「研修講堂」
（福岡市中央区長浜3丁目3-1）

定員 150名（先着順に受付を行い、定員になり次第締め切ります）

申込締切 平成31年2月8日（金）

受講料 会員病院 一人につき 2,500円
会員外病院、その他の施設 一人につき 3,500円

基調講演 「検体検査の精度・品質に係る法改正の背景と課題」

講師：(株)キューリン品質保証室 品質保証担当取締役 小山宣輝 先生

講演 1 「生化学検査における精度保証 — 当院の取り組み —」

講師：産業医科大学病院臨床検査・輸血部
生理機能検査科 科長 早原千恵 先生

講演 2 「ISO 15189 が要求する品質保証とその実例」

講師：(株)飯塚病院中央検査部 副技師長 秋永理恵 先生

*お問合せは福岡県病院協会事務局（TEL 092-436-2312 / E-mail : fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp）まで
お願いいたします。

ほすびたる

第732号

平成31年1月20日発行

発行 © (公社)福岡県病院協会

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号
福岡県メディカルセンタービル 2F

TEL092-436-2312 / FAX092-436-2313

E-mail fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp

URL http://www.f-kenbyou.jp

編集 発行人 © (公社)福岡県病院協会

制作 © (株)梓書院

〒812-0044 福岡市博多区千代3-2-1
麻生ハウス3F

TEL092-643-7075 / FAX092-643-7095

E-mail : mail@azusashoin.com

編集主幹…赤司 浩一

編集委員長…岡嶋泰一郎

編集副委員長…竹中 賢治

編集委員…平 祐二・澄井 俊彦

岩永 知秋・増本 陽秀

壁村 哲平・平野 礼子